

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2006-129412

(P2006-129412A)

(43) 公開日 平成18年5月18日(2006.5.18)

(51) Int. Cl.

H04N 5/64 (2006.01)

F 1

H04N 5/64 571A

H04N 5/64 501Z

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願2004-347574 (P2004-347574)

(22) 出願日 平成16年11月1日 (2004.11.1)

(71) 出願人 591184932

柴田 武

佐賀県唐津市山下町1152番地の6

(72) 発明者 柴田 武

佐賀県唐津市山下町1152-6

(54) 【発明の名称】 テレビ用装飾額縁

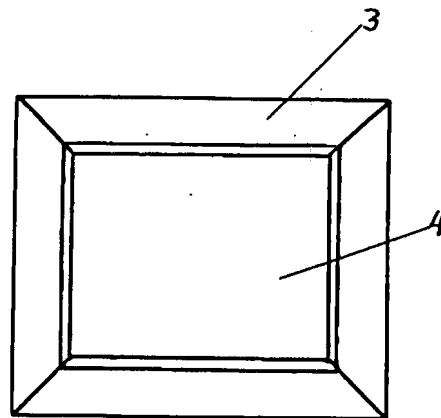
(57) 【要約】

【課題】 薄型壁掛けの大型テレビで番組を観賞しないとき、テレビの前面パネル枠に装飾額縁を装着して、テレビの画面に録画した名画、書、写真などの静止画像を映し出し、映し出された静止画像を一枚の絵画として室内の装飾に利用するものである。

【解決手段】 テレビ画面に映し出される静止画像を室内の絵画装飾にするために薄型テレビの前面パネル枠の前にガラスを嵌めない装飾額縁を着脱自在に設ける。装飾額縁はテレビ画面に映し出す静止画像が泰西名画には洋風飾りのある装飾額縁、日本画には和風の装飾額縁、写真にはメタル風装飾額縁などに取り替えて静止画像に相応しい装飾額縁を装着する。装飾額縁は装着したままでテレビの番組が見られるようにする。

壁掛けテレビの他従来のテレビに本案の装飾額縁を装着して室内装飾として利用できる

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項1】

薄型テレビの前面パネル枠に着脱自在に設けてなるテレビ用装飾額縁。

【発明の詳細な説明】

【技術の分野】

【0001】

本発明は、テレビの前面パネル枠の装飾に関するものである。

【背景技術】

【0002】

薄型壁掛けの大型テレビは番組を観賞しない時は電源をOFFにして休止する。休止中のテレビのディスプレイパネルは暗くなり、何にも利用されていない。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

薄型の壁掛け大型テレビで番組を観賞しないとき、テレビの前面パネルに装飾額縁を装着して、テレビの画面に録画した名画、書、写真などの静止画を映し出し、映し出された静止画像を一枚の絵画として室内の装飾に利用するものである。

【課題を解決するための手段】

【0004】

テレビ画面に映し出される静止画像を室内の装飾にするために壁掛けテレビ(1)の前面パネル枠(2)の前にガラスを嵌めない装飾額縁(3)を着脱自在に設ける。装飾額縁(3)はテレビ画面(4)に映し出す静止画像が泰西名画の場合は洋風飾りのある装飾額縁、日本画の場合には和風の装飾額縁、写真の場合はメタル風装飾額縁等着脱自在に替えてテレビの静止画像に相応しい装飾額縁にして、室内を装飾し、観賞する。

【発明の効果】

【0005】

絵画は入れる額縁により一層絵画を引き立てるものである。本案はテレビに映る静止画像に相応しい装飾額縁(3)をテレビの前面パネル枠に装着することで、美術館で本物の芸術的絵画を鑑賞しているような雰囲気になり、テレビが一変して室内の高級美術装飾品になる。

テレビに映し出される静止画像はDVD等の録画画像であるので、世界の美術館の美術品を録画したDVDをセットすれば、洋画、日本画のほか抽象画、写真などの芸術作品を自宅や会社の応接間等の壁掛けテレビで観賞することが出来る。又自筆の油絵、毛筆の書、写真などオリジナル作品をデジカメで撮りDVDに録画すれば自分作の静止画像をテレビに映して観賞し、室内を飾ることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0006】

以下本発明の実施の形態について説明する。

薄型テレビ(1)の前面パネル枠(2)の前にガラスを嵌めない装飾額縁(3)を着脱自在に設けてなり、テレビ画面(4)に映し出される映像が装飾額縁(3)の中に嵌め込まれたように装飾するものである。

本案は主として録画による絵画等をテレビ画面に映し出し、静止画像にして、静止画像に相応しい装飾額縁(3)をテレビの前面パネル枠(2)の前に取り付ける。

静止画像には洋画、日本画、写真などあり、泰西名画には彫刻を施した金色の洋風額縁、日本画には和風額縁、写真にはメタル風額縁など静止画像に相応しい装飾額縁(3)を選び、テレビ前面パネル枠(2)の前に自在に着脱できるようにする。

壁掛け薄型テレビの他テレビ台に置いて見る各種のテレビの前面パネル枠(3)にも本案の装飾額縁(3)を装着できるようにする。

本案はガラスを嵌めない装飾額縁(3)を枠組にて構成し、テレビの正面パネル枠(2)の周辺が隠れるように装飾するとともに、テレビ画面(4)を見るのに支障がないよう

にする。装飾額縁（３）を装着したままでテレビの番組を見ることができる。

【実施例１】

【０００７】

本発明の装飾額縁（３）は彫刻を施した金色の洋風額縁やシンプルな和風額縁、メタル風額縁など色々数種類の装飾額縁を揃え、客の要望に答えて供給できるようにする。

本案は番組を見ない時のテレビの室内装飾利用法である。

【図面の簡単な説明】

【０００９】

【図１】本発明の正面図

【図２】本発明の側面図

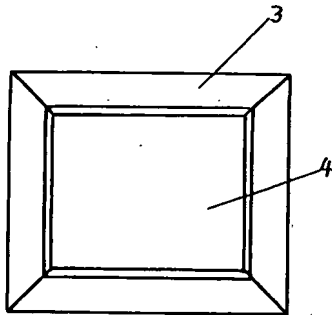
【符号の説明】

【００１０】

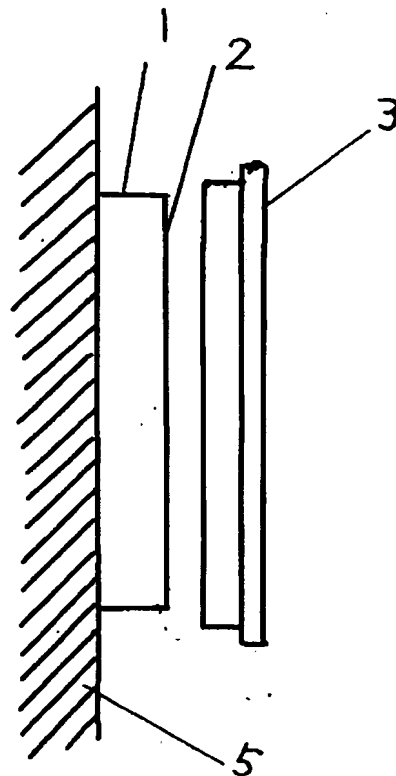
- １ 薄型テレビ
- ２ 薄型テレビ前面パネル枠
- ３ 装飾額縁
- ４ テレビ画面
- ５ 壁の断面

10

【図１】



【図２】



(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2006-129412

(P2006-129412A)

(43) 公開日 平成18年5月18日(2006.5.18)

(51) Int. Cl.

H04N 5/64 (2006.01)

F I

H04N 5/64 571A

H04N 5/64 501Z

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願2004-347574 (P2004-347574)
 (22) 出願日 平成16年11月1日 (2004.11.1)

(71) 出願人 591184932
 柴田 武
 佐賀県唐津市山下町1152番地の6
 (72) 発明者 柴田 武
 佐賀県唐津市山下町1152-6

(54) 【発明の名称】 テレビ用装飾額縁

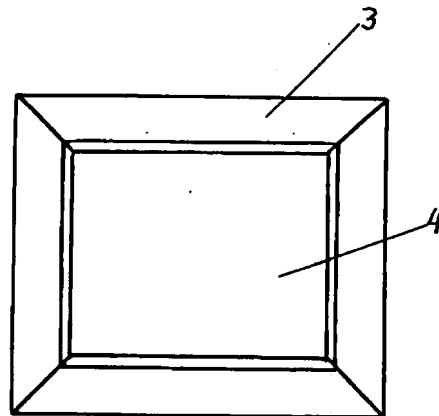
(57) 【要約】

【課題】 薄型壁掛けの大型テレビで番組を観賞しないとき、テレビの前面パネル枠に装飾額縁を装着して、テレビの画面に録画した名画、書、写真などの静止画像を映し出し、映し出された静止画像を一枚の絵画として室内の装飾に利用するものである。

【解決手段】 テレビ画面に映し出される静止画像を室内の絵画装飾にするために薄型テレビの前面パネル枠の前にガラスを嵌めない装飾額縁を着脱自在に設ける。装飾額縁はテレビ画面に映し出す静止画像が泰西名画には洋風飾りのある装飾額縁、日本画には和風の装飾額縁、写真にはメタル風装飾額縁などに取り替えて静止画像に相応しい装飾額縁を装着する。装飾額縁は装着したままでテレビの番組が見られるようにする。

壁掛けテレビの他従来のテレビに本案の装飾額縁を装着して室内装飾として利用できる

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項1】

薄型テレビの前面パネル枠に着脱自在に設けてなるテレビ用装飾額縁。

【発明の詳細な説明】

【技術の分野】

【0001】

本発明は、テレビの前面パネル枠の装飾に関するものである。

【背景技術】

【0002】

薄型壁掛けの大型テレビは番組を観賞しない時は電源をOFFにして休止する。休止中のテレビのディスプレイパネルは暗くなり、何にも利用されていない。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

薄型の壁掛け大型テレビで番組を観賞しないとき、テレビの前面パネルに装飾額縁を装着して、テレビの画面に録画した名画、書、写真などの静止画を映し出し、映し出された静止画像を一枚の絵画として室内の装飾に利用するものである。

【課題を解決するための手段】

【0004】

テレビ画面に映し出される静止画像を室内の装飾にするために壁掛けテレビ(1)の前面パネル枠(2)の前にガラスを嵌めない装飾額縁(3)を着脱自在に設ける。装飾額縁(3)はテレビ画面(4)に映し出す静止画像が泰西名画の場合は洋風飾りのある装飾額縁、日本画の場合には和風の装飾額縁、写真の場合はメタル風装飾額縁等着脱自在に取替えてテレビの静止画像に相応しい装飾額縁にして、室内を装飾し、観賞する。

【発明の効果】

【0005】

絵画は入れる額縁により一層絵画を引き立てるものである。本案はテレビに映る静止画像に相応しい装飾額縁(3)をテレビの前面パネル枠に装着することで、美術館で本物の芸術的絵画を鑑賞しているような雰囲気になり、テレビが一変して室内の高級美術装飾品になる。

テレビに映し出される静止画像はDVD等の録画画像であるので、世界の美術館の美術品を録画したDVDをセットすれば、洋画、日本画のほか抽象画、写真などの芸術作品を自宅や会社の応接間等の壁掛けテレビで観賞することが出来る。又自筆の油絵、毛筆の書、写真などオリジナル作品をデジカメで撮りDVDに録画すれば自分作の静止画像をテレビに映して観賞し、室内を飾ることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0006】

以下本発明の実施の形態について説明する。

薄型テレビ(1)の前面パネル枠(2)の前にガラスを嵌めない装飾額縁(3)を着脱自在に設けてなり、テレビ画面(4)に映し出される映像が装飾額縁(3)の中に嵌め込まれたように装飾するものである。

本案は主として録画による絵画等をテレビ画面に映し出し、静止画像にして、静止画像に相応しい装飾額縁(3)をテレビの前面パネル枠(2)の前に取り付ける。

静止画像には洋画、日本画、写真などあり、泰西名画には彫刻を施した金色の洋風額縁、日本画には和風額縁、写真にはメタル風額縁など静止画像に相応しい装飾額縁(3)を選び、テレビ前面パネル枠(2)の前に自在に着脱できるようにする。

壁掛け薄型テレビの他テレビ台に置いて見る各種のテレビの前面パネル枠(3)にも本案の装飾額縁(3)を装着できるようにする。

本案はガラスを嵌めない装飾額縁(3)を枠組にて構成し、テレビの正面パネル枠(2)の周辺が隠れるように装飾するとともに、テレビ画面(4)を見るのに支障がないよう

にする。装飾額縁（３）を装着したままでテレビの番組を見ることができる。

【実施例１】

【０００７】

本発明の装飾額縁（３）は彫刻を施した金色の洋風額縁やシンプルな和風額縁、メタル風額縁など色々数種類の装飾額縁を揃え、客の要望に答えて供給できるようにする。

本案は番組を見ない時のテレビの室内装飾利用法である。

【図面の簡単な説明】

【０００９】

【図１】本発明の正面図

【図２】本発明の側面図

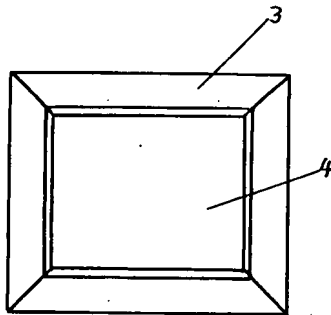
【符号の説明】

【００１０】

- １ 薄型テレビ
- ２ 薄型テレビ前面パネル枠
- ３ 装飾額縁
- ４ テレビ画面
- ５ 壁の断面

10

【図１】



【図２】

